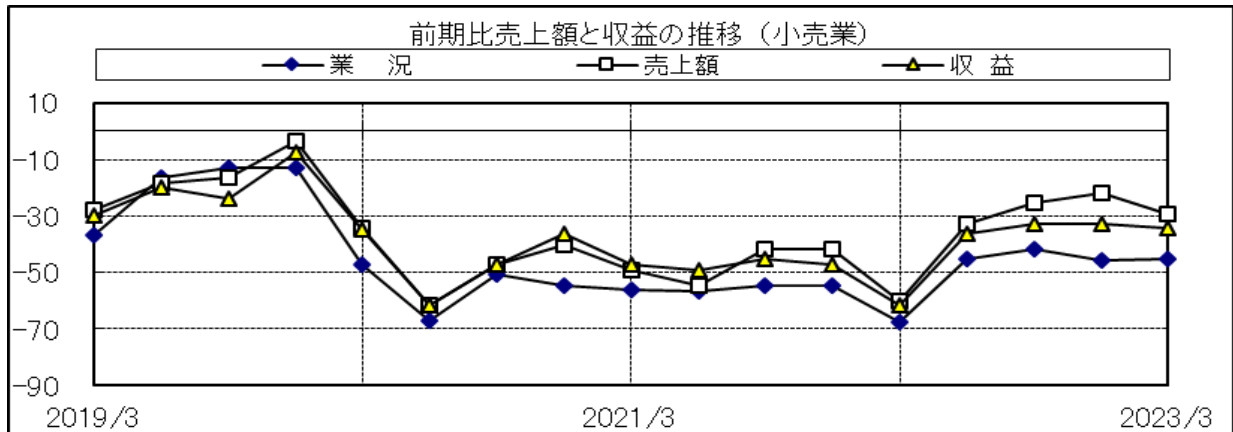


小売業 55企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業況	-41.9	-45.5	-45.4	-40.0
売上額	-25.5	-21.9	-29.2	-12.8
収益	-32.8	-32.8	-34.5	-20.0

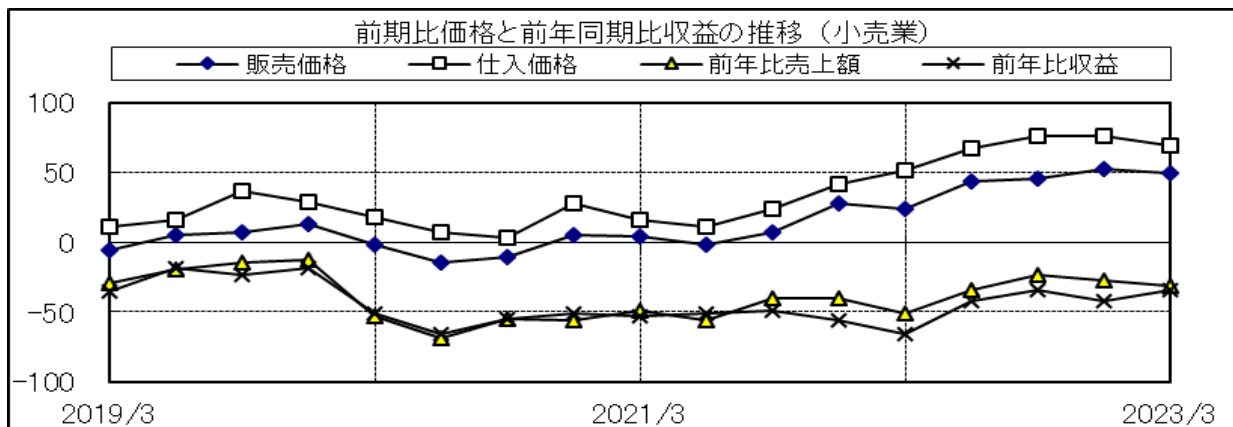
今期の業況判断 D.I. は△45.4 で、前期比 0.1 ポイント上昇した。前年(△67.3)比 21.9 ポイント上昇した。地区別の D.I. は高い順に、静内が最も高く、次に、三石、広尾、様似、浦河と続き、えりもが最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は△29.2 で、前期比 7.3 ポイント下降した。収益判断 D.I. は△34.5 で、前期比 1.7 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	45.5	52.6	49.1	41.8
仕入価格	76.3	76.4	69.1	54.5

販売価格判断 D.I. は 49.1 で、前期比 3.5 ポイント下降。前年(23.7)比 25.4 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I. は 69.1 で前期比 7.3 ポイント下降。前年(51.0)比 18.1 ポイント上昇した。業種別では、衣料・食料品は、販売・仕入価格ともに下降し、家電品は、販売・仕入価格ともに上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-5.6	0.0	-7.3	-5.4
人手状況	-19.9	-25.4	-21.8	-21.7

残業時間判断 D.I. は△7.3 で、前期比 7.3 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は△21.8 で、前期比 3.6 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

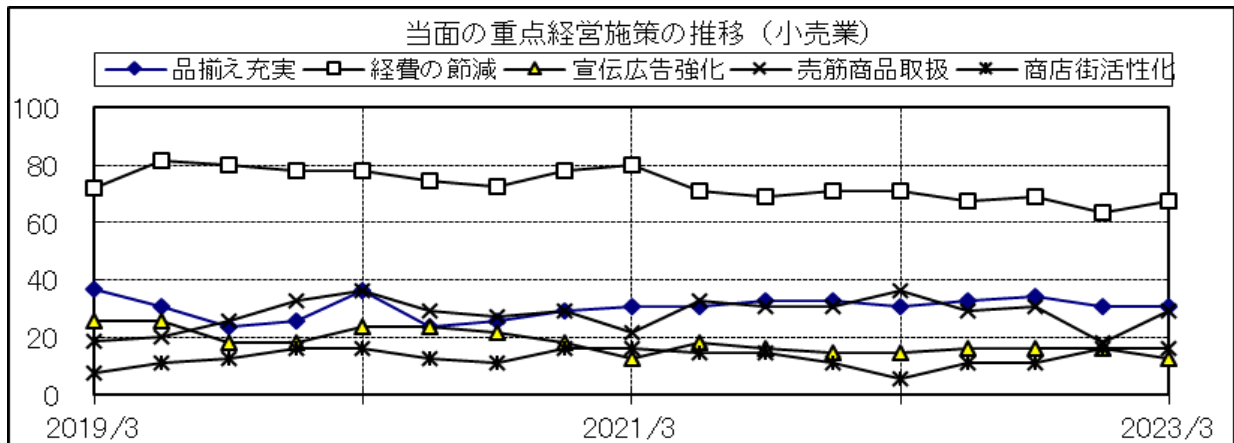
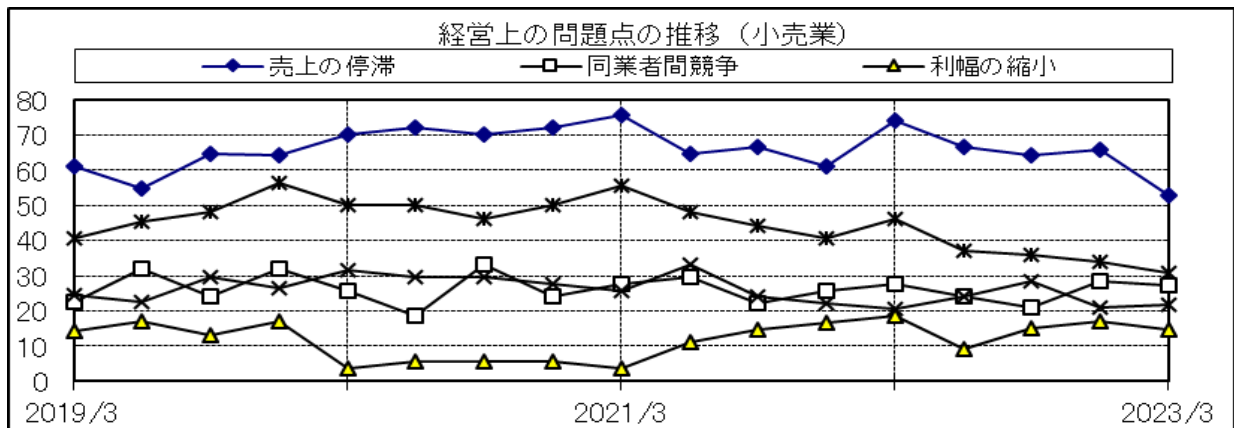
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.7$ で、前期($\Delta 7.3$)比5.4ポイント下降した。
設備実施企業割合は5.5で、前期(3.6)比1.9ポイント上昇した。設備投資は、前期2社に対し3社の実施となった。来期の設備投資は、4社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が52.7%と最も多く、次に「値上要請」32.7%、「商圈人口減少」30.9%、「同業者競合」27.3%、「大型店競合」21.8%、「人手不足」・「利幅縮小」が14.5%、「商店街集客力低下」12.7%、「取引先減少」10.9%、「諸経費増加」9.1%、「人件費増加」7.3%、「店舗老朽化」・「天候不順」・「地場産業衰退」が3.6%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が67.3%と最も多く、次に「品揃え改善」30.9%、「売れ筋商品取扱い」29.1%、「商店街活性化」16.4%、「宣伝広告強化」・「仕入先開拓選別」・「人材確保」が12.7%、「新事業開始」7.3%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 40.0$ と、今期比5.4ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 12.8$ と、今期比16.4ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 20.0$ と、今期比14.5ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は41.8と、今期比7.3ポイントの下降を見通している。

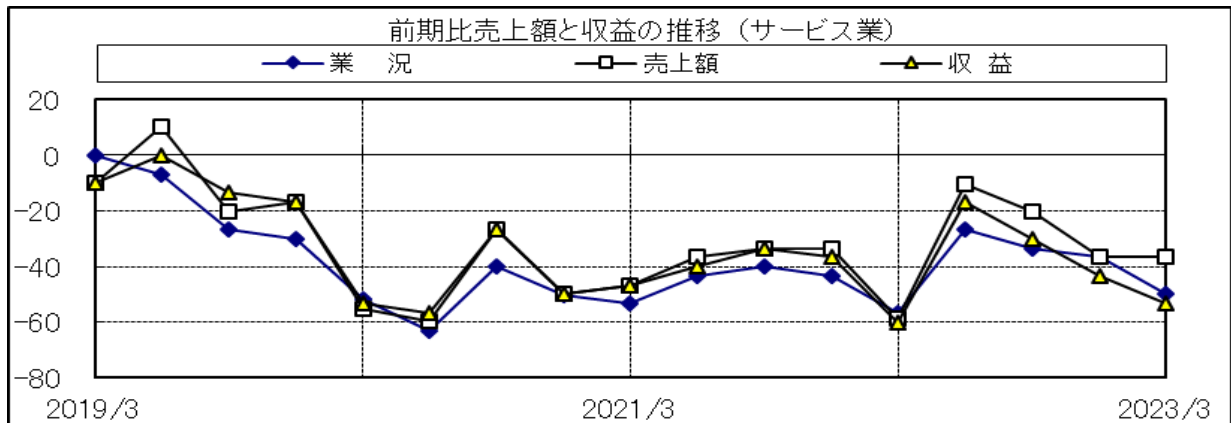
予想仕入価格判断D. I. は54.5と、今期比14.6ポイントの下降を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-33.4	-36.7	-49.9	-26.7
売上額	-20.1	-36.7	-36.7	-13.3
収 益	-30.0	-43.3	-53.3	-16.7

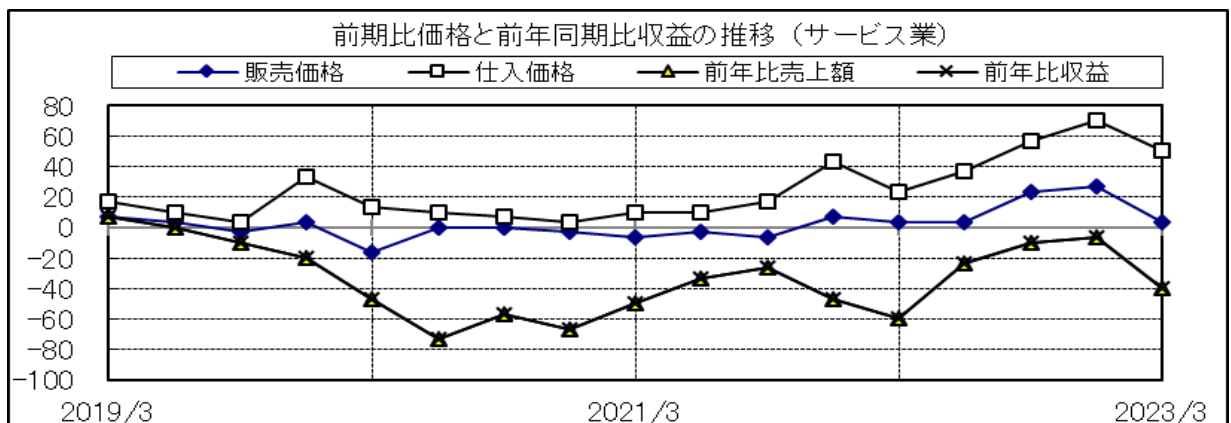
今期の業況判断 D. I. は△49.9 で、前期比 13.2 ポイント下降。前年(△56.7)比 6.8 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に静内、えりも・広尾が同率、様似と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△36.7 で、前期と同水準となった。収益判断 D. I. は△53.3 で、前期比 10.0 ポイント下降した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
料金価格	23.3	26.7	3.3	-0.1
材料価格	56.7	70.0	50.0	36.7

料金価格判断 D. I. は 3.3 で、前期比 23.4 ポイント下降した。前年(3.3)と同水準となった。材料価格判断 D. I. は 50.0 で、前期比 20.0 ポイント下降した。前年(23.4)比 26.6 ポイント上昇した。業種別の料金価格は、旅館業は横這い、洗濯理美容業・自動車整備業は下降。材料価格は、旅館業・自動車整備業は上昇、洗濯理美容業は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-6.9	0.0	-13.4	-6.7
人手状況	-20.0	-16.7	-20.0	-23.3

残業時間判断 D. I. は△13.4 で、前期比 13.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

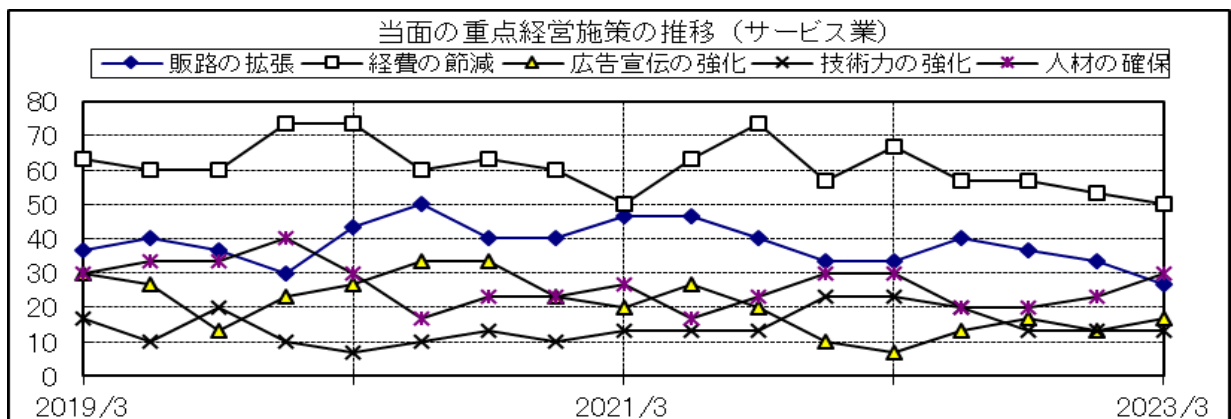
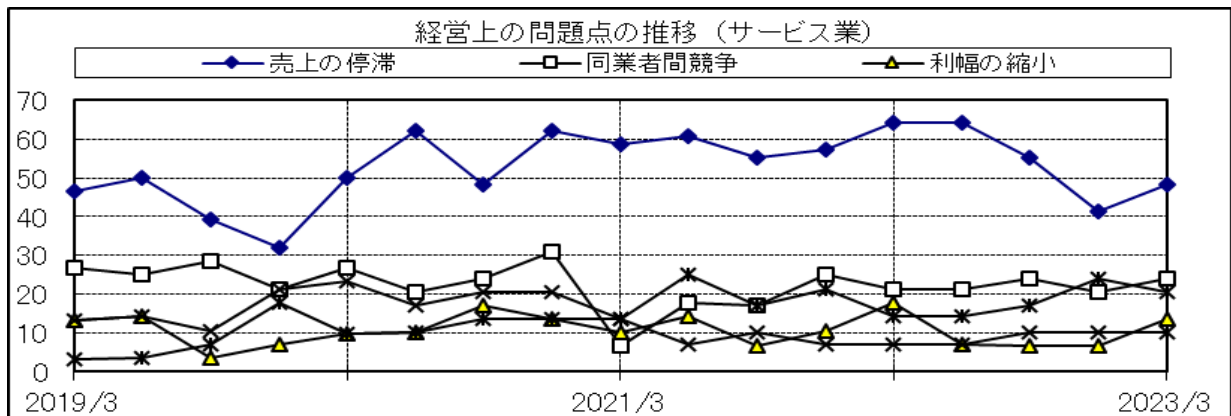
人手過不足判断 D. I. は△20.0 で、前期比 3.3 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 3.3$ で、前期($\Delta 13.3$)比10.0ポイント上昇した。
 設備投資実施企業割合は10.0で、前期(3.3)比6.7ポイント上昇した。設備投資は、前期1社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が62.1%と最も多く、次に「売上停滞減少」48.3%、「同業者競合」24.1%、「人手不足」・「商圈人口減少」・「地場産業衰退」が20.7%、「利幅縮小」13.8%、「人件費増加」10.3%、「大手企業競合」・「技術力不足」・「取引先減少」が6.9%となっている。
 重点経営施策では、「経費節減」が50.0%と最も多く、次に「人材確保」30.0%、「販路拡大」26.7%、「宣伝広告強化」16.7%、「技術力強化」13.3%、「店舗設備改善」・「教育訓練強化」・「労働条件改善」が6.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 26.7$ と、今期比23.2ポイントの上昇を見通している。
 予想売上額判断D.I.は $\Delta 13.3$ と、今期比23.4ポイントの上昇を見通している。
 予想収益判断D.I.は $\Delta 16.7$ と、今期比36.6ポイントの上昇を見通している。
 予想料金価格判断D.I.は $\Delta 0.1$ と、今期比3.4ポイントの下降を見通している。
 予想材料価格判断D.I.は36.7と、今期比13.3ポイントの下降を見通している。